

混合歯列期における上突咬合の治療を振り返って

愛媛県新居浜市開業 歯ならび矯正歯科医院 和島 武毅

混合歯列期における上突咬合の治療に対して、治療サイドが主体となってオーバージェットや大臼歯関係を改善する目的で治療を行う場合、患者サイドの要望が主体となって口元を改善させる目的で治療を行う場合、あるいは上顎前歯部の外傷の予防的な観点から早期治療を行う場合など様々な考え方から臨床的には早期治療が選択される。また、歯科矯正を専門に扱うスタディグループ間でも治療方針や治療手順、使用する装置などの違いから早期治療の開始時期なども様々である。さらに、歯科界の環境の変化などが起因し早期治療が商業ベース扱われている現状もある。また、巷には様々な情報が氾濫し、患者さんの要望も多様化する中、歯科矯正を取り巻く環境は非常に混乱した状態になっている。

今回、第一期治療では2×4ブラケット装置にJ-hook Haed Gearを用い、第二期治療ではマルチブラケット装置を用い、小臼歯抜歯にて治療を行った症例などを振り返り、混合歯列期の上突咬合における早期治療の意義や必要性について考察したいと思う。

【略歴】

和島 武毅 (わじま・たけひこ)

医療法人歯顎会 歯ならび矯正歯科医院 院長

1991年3月 日本歯科大学新潟歯学部卒業

1995年3月 日本歯科大学新潟歯学部歯科矯正学大学院卒業

1997年10月 歯ならび矯正歯科医院 開設

2000年2月 医療法人 歯顎会開設

2002年7月 ハッピー矯正歯科開設

2004年12月 日本歯科矯正専門医認定医機構 認定歯科矯正専門医取得

現在に至る